The Association of Art Education Newsletter

美術科教育学会通信 No.99 2018.10.20

□巻頭言　□第４１回美術科教育学会北海道大会第二次案内　□理事会報告
□第９期学会役員選挙通知　□新刊紹介　□本部事務局より

言葉を、味方に。

研究部担当副代表理事　直江俊雄（筑波大学）

美術体験の最初期記憶と言葉

子どもの描画の発達などを教えていると、それでは、自分の美術表現活動の最も初期の記憶は何だろう、と振り返りたくなることが時々あります。学生にもそんなことを問いかけたりする場面が、教員養成の授業などではあったりするのではないでしょうか。

私の場合、実家には幼児期のお絵かき帳などが少し残っていたのですが、実は自分がそれを描いたことをはっきりと思い出せる絵はほとんどありませんでした。ところが、絵そのものは残っていないのですが、私が幼稚園の最初の年（4 歳頃）につくった作品のイメージで、かなりはっきりと記憶に残っているものが一つあります。それは、布の端切れや毛糸などをコラージュして表した作品で、おそらくはテレビなどで見た、手品師の姿を表したものでした。

テーブルの上にシルクハットが逆さまに置かれ、その上に手品師が布を垂らして、「種も仕掛けもありません」とやっています。次の瞬間、手品師が布をどけると、おそらくシルクハットから鳩などが飛び出してきて観客を驚かせるのでしょう。手品師が手に持っている布は、緑色がかったまだらの模様、布を持つ手品師の腕も緑色の毛糸で表現されています。緑色は私のお気に入りの色でした。

正確には、私はその作品を覚えているというより、その作品について幼稚園の先生と会話したことを覚えていると言ったほうがいいと思います。いつもお昼寝の時間にオルガンで「エリーゼのために」を弾いてくれた、私の大好きだった目の大きな先生が、その作品を手にとって私に聞いてくれました。「これは何なの？」

指導者としては上手に言わないと、子どもが自分の表現を否定されたと受け止めかねない（「先生でも何なのかわからない下手な作品をぼくは描いてしまった…」）と思いますが、私はただ、好きな先生が自分に声をかけてくれたことが嬉しくて、一生懸命に作品の意図を説明しました。幼稚園の集団生活に溶け込めない寡黙な幼児だったので、おそらくその説明もたどたどしかったと思いますが、先生に作品を見せながら話しているその場面は、静かな光に包まれた大切な時間だったのです（きっと記憶の中で美化しているでしょう）。

これが、私が記憶をたどる中で、自分にとって最も初期の描画体験です。作品そのものよりも、作品を通して他の人と言葉をかわした体験の方が人の記憶の中で重要視されることを、仮に「美術体験記憶の言語強化説」と呼んでおきましょう（いつかどなたかが立証してくださることを期待しています）。

若い画学生と言葉

さて、美術科教育学会会員は、美術を主に扱う専門家でありながら、教育の場面で美術と子どもたちをつ

なぐ会話を生み出したり、論文を書いたり読んだりするなど、言葉と一緒に仕事をすることが仕事の中で重要な位置を占めることが多いのではないかと思います。

私自身のことを振り返ると、美術表現と言葉の表現との関係は、一時期かなりの葛藤あるいは違和感を覚える問題でした。第一の葛藤期は学生時代です。大学で絵画表現を学ぶようになってから、美術作品を通して自分を表現することが至上の課題であり、言葉でそれを説明することは、その価値を損なうこと、あるいは作品だけで勝負できないこと（画家としての敗北）を認めることだという考えが、自分を支配するようになっていたと思います。一方で、読書も作文も元から好きであり、大学のレポートで何度も推敲して、自分の考えを表す言葉を見つけられたときの充実感は否定できませんでした。自分の中で、「絵を選ぶのか、言葉を選ぶのか」というような二者択一の思考が振り子のように揺れ動き、両者をうまく結ぶことができずにいたように思います。

卒業論文の題名は「絵画制作を全体的過程としてとらえる試み」。制作過程を自分の言葉で説明している画家の例をいくつか検討した上で、私自身の絵画制作の始まりから終わりまでを自分の言葉でとらえ直してみようとするものでした。私だけなのかどうかわかりませんが、若い画学生の頃というのは、自分の作品制作と自己があまりに一体化していたので、例えば他の画家の作品を見ても、「自分の作品に活かせるかどうか」という視点のみで見てしまいがちでした。自分の表現傾向と異なる作品には寛容になれず、幅広く様々な作品の価値を受け入れる余裕がなかったと思います。その点に自分で気づいていながら、どうすることもできませんでした。そのような中で、卒業論文で取り組もうとしたことは、作品制作という一連の行為を、言葉を通して、自分から少し離れた現象として対象化してみようということだったのかもしれません。

美術教育研究者と言葉

言葉との関係における第二の葛藤期は、中学校教員を経て大学院で研究を初めた頃です。修士課程で油絵を描いていたのですが、修士論文のテーマは自分の絵画制作とは全く切り離し、中学校美術科のカリキュラムがどのように編成されているかを教師たちの集団的動向として明らかにすることを目指しました。

このとき、美術表現行為とは別に、言葉だけで戦う世界（いわゆる論文）の中で自己の位置を確立しようと、もがいていたわけですが、初めての学会誌への投稿結果の衝撃について書いたように（「査読者を最高の同志にしよう」『美術科教育学会通信』第 93 号、2016 年 10 月）、その道のりは易しいものではありませんでした。大学院生時代ずっと感じていたことは、自分は美術脳から研究脳へ、働き方の全く違う脳の仕組みに、自分を改造しつつあるのではないかということでした。

私は美術家としての脳を研究者としての脳と引き換えに放棄してしまったのでしょうか。今振り返ってみると、言葉優先の仕事になって、美術との関係に生じた恩恵もあります。それは、言葉を通して美術から距離をおいて眺められるようになったことです。画学生の頃、自己の制作と離れた思考がどうしてもできなかったことと比べると、例えば空から眺めるように、いろいろな思考の可能性を自分で試すことができるようになり、自分と異なる思考（美術）についても、いくぶん寛容になれたような気がします。

今ここでは、美術表現と言葉という文脈で話をしていますが、美術科教育学会会員の場合、教育実践と言葉という問題の捉え方もできます。自身の、当然限界がある教育実践力の軛から離れて、飛ぶ鳥のように様々な視点から自由に眺めてまわり、そこかしこで見つけてきた興味深い果実を、その教育実践の当事者でない研究者たちが見られる形式（論文）として残していく。それは、言葉を味方にして、一つきりの教育実践を、広く共有可能な世界へと開いていくことだと言えるかもしれません。

子どもや学生が自分の表現について語るのを聞くこと、美術について人と一緒に語ること、他の研究者の発表や学生の研究指導で言葉を通して一緒に思考していくことなどが、私は好きです。これも、研究の実践を通して言葉との関わりを深めた恩恵の一つだと思っています。幼児期に、自分の作品を先生に見せて懸命に説明していた自分の姿が重なります。

美術教育の危機が叫ばれる状況下で、教育制度改革を論じ、社会における美術の役割を論じ、美術教育の必要性を主張することは、言葉を通した行動として極めて重要です。一方で、研究者自身にとっての書くことの意義を、自分の内側に向かってそれぞれが問いかけてみることも、意味のあることではないでしょうか。言葉を味方にして、自分と美術と教育実践との関わりを、かけがえのないものにする。研究といい、論文査読といっても、そのような研究者の個人史的な積み重ねの上に成り立っている…。

学会理事会の席で運営について議論している最中に、ふとそのような思いが浮かんできて、学会通信に私の個人的な経験を綴ってみることにしました。人によって、美術と教育実践と言葉との関わりの自分史は、多様なのではないかと思います。今度、「美術教育自分史研究部会」でも立ち上げてみませんか。

北海道大会予告（第二次案内）

第 41 回美術科教育学会北海道大会

大会実行委員長　佐々木　宰（北海道教育大学）

今年は豪雪、噴火、地震、台風による豪雨などの災害が日本各地で続き、甚大な被害をもたらしています。北海道では、9 月 6 日未明に震度 7 の地震が発生しました。被災されたすべての皆様に、心からお見舞い申し上げます。一日も早い復旧を願っております。

また、この度の北海道胆振東部地震について、多くの方々からご心配とともに、励ましをいただきましたことを、厚くお礼申し上げます。

第 41 回美術科教育学会北海道大会

平成 31（2019）年３月 26 日（火）・27 日（水）

大会テーマ　「新たな時代を築く美術教育」

第 41 回美術科教育学会北海道大会を、札幌大谷大学（北海道札幌市）を主会場として開催します。来年は改元を控えていますので、この北海道大会は、「平成」最後の美術科教育学会大会となります。

平成の 30 年を振り返り、新しい時代の美術教育へ歩みだしていくための研究と交流の場となるよう、大会テーマを「新たな時代を築く美術教育」としました。

今大会では、北海道で子どもたちの指導にあたっている学校現場の先生方や、文部科学省教科調査官の岡田京子先生を招いて、新しい時代に向けての美術教育のあり方を考えるシンポジウムを企画しています。また、このシンポジウムは一般公開し、学校教員や美術教育に関心をもつ多くの方々に参加を呼びかける予定です。

様々な出来事があった平成の 30 年を経て、学会員はもとより多くの美術教育関係者が一緒になって、新たな一歩を踏み出す大会にしたいと考えております。多くの皆さまのご参加を心からお待ちいたします。

■主催　美術科教育学会
■共催　札幌大谷大学、北海道教育大学
■後援　北海道教育委員会、札幌市教育委員会（申請中）
■会期　2019 年 3 月 26 日（火）・27 日（水）
■主会場　札幌大谷大学
（札幌市東区北 16 条東 9 丁目 1 番 1 号）
■懇親会会場　ホテルライフォート札幌
（札幌市中央区南 10 条西 1 丁目）
■理事会会場　北海道教育大学札幌駅前サテライト
（札幌市中央区北 5 条西 5 丁目　sapporo 55　4 階）

■大会日程

前日理事会　2019 年 3 月 25 日（月）
【北海道教育大学札幌駅前サテライト】
15:00　理事会　（17:30 終了予定）

大会第 1 日目　2019 年 3 月 26 日（火）
【札幌大谷大学】
8:30　受付（百年記念館入り口）
9:00　開会式（百年記念館同窓会ホール）
9:30　研究発表Ⅰ（中央棟３階講義室）
11:45　昼休み
13:00　研究発表Ⅱ（中央棟３階講義室）
15:50　研究部会（中央棟２階演習室）
17:30　移動（地下鉄等）
【ホテルライフォート札幌】
18:30　懇親会（20:30 終了予定）

大会第 2 日目　2019 年 3 月 27 日（水）
【札幌大谷大学】
8:30　受付（大谷記念ホール入り口）
9:00　シンポジウム（大谷記念ホール）
11:00　総会（大谷記念ホール）
11:30　昼休み
12:40　研究発表Ⅲ（中央棟３階講義室）
（15:30 終了予定）

■シンポジウム「新たな時代を築く美術教育」
・シンポジスト：　森實祐里（札幌市立大倉山小学校教諭）、更科結希（北海道教育大学附属釧路中学校教諭）
・講評・講演：岡田京子（文部科学省教科調査官・国立教育政策研究所教育課程調査官）
・司会者：阿部宏行（北海道教育大学教授）
※このシンポジウムは学会員以外に無料で公開します。

■学会参加費・懇親会費
※事前申し込みが 500 円お得です。

	学　会		懇親会	
	事前申込	当日受付	事前申込	当日受付
正会員	4,500 円	5,000 円	5,000 円	5,500 円
非会員*	5,500 円	6,000 円	5,000 円	5,500 円
大学院生等**	2,500 円	3,000 円	3,500 円	4,000 円
*大学院生を除く。**社会人を除く。正会員を含む。				

※「大学美術教育学会」又は「日本美術教育学会」の会員は本学会会員と同様に、正会員の料金で参加できます。その旨を、払込用紙の通信欄にご記入ください。
※お弁当の用意はしていません。また，大学の学生食堂や売店も閉店中ですが、大学周辺にはレストラン、食堂等の各種飲食店、コンビニ等が多数あります。

■事前参加・研究発表申込み
（1）学会参加申込み、研究発表申込み
事前参加申込み、研究発表を希望される方は、下記の要領をご確認いただき、第 41 回美術科教育学会北海道大会のホームページにアクセスし、「オンライン大会登録受付システム」から登録・申込みをしてください。

事前参加登録・演題登録の開始
2018 年 11 月 1 日（木）10 時

・第 41 回美術科教育学会北海道大会ホームページ
https://sites.google.com/view/artedu-hokkaido
※学会ホームページ（http://www.artedu.jp）からリンクされています。
・オンライン大会登録受付システム
https://www.e-naf.jp/meeting/ENAF/artedu41/member/
※上記の北海道大会ホームページからリンクされています。
※登録後、「参加登録受付メール」または「演題登録受付メール」が届きますのでご確認ください。
※「研究発表概要原稿テンプレート」（Microsoft ワード文書）は北海道大会 HP よりダウンロードし、完成しましたら、オンライン大会登録受付システムで 2019 年 1 月 18 日（金）までにご投稿願います。
※研究発表の申込については、「オンライン大会登録受付システム」による登録が必要ですが、参加については当日の受付も可能です。
※事前申込みの参加費・懇親会費の支払いには、同封の「払込取扱票」をご利用の上、2019 年 2 月 28 日（木）までに払込んでください。
※入金締切日までにご入金いただけない場合、事前参加登録は自動的にキャンセルされます。

（2）申込締切
①演題登録及び研究発表概要投稿締切：2019 年 1 月 18 日（金）24 時
②事前参加登録及び参加費払込締切：2019 年 2 月 28 日（木）24 時
締切日・時刻を過ぎるとオンラインシステムで登録は出来なくなります。余裕をもって、期限までに登録してください。不明な点があれば、大会システムサポートデスクまで、電話・メールにてご相談ください。

（3）オンライン登録システムに関する問合
（※参加申込、発表申込、概要集について）
第 41 回美術科教育学会北海道大会システムサポートデスク（中西印刷株式会社）
Tel: 075-415-3661
E-mail: artedu41@nacos.com

（4）大会に関する問合
第 41 回美術科教育学会北海道大会運営事務局
・事務局長　花輪大輔（北海道教育大学）
Tel: 011-778-0968（研究室）
E-mail: hanawa.daisuke@s.hokkyodai.ac.jp

（5）年会費・入会・その他会員資格等に関する問合
本部事務局支局（ガリレオ学会業務情報化センター）
Tel: 03-5981-9824
Fax: 03-5981-9852
E-mail: g030aae-galileo@ml.gakkai.ne.jp

■研究発表について
（1）発表資格
発表は、本学会会員（申込み時点で、当該年度までの会費を完納していること）に限ります。共同研究の場合は、筆頭発表者が会員であり、かつ会員でない者が発表者の半数を超えないことになっています。
詳細は、学会 HP（http://www.artedu.jp/）の「美術科教育学会 大会発表規則 第３章」を参照のこと。

（2）発表時間
30 分（発表 20 分、質疑 10 分）
＊各研究発表の日時、会場については、ホームページでお知らせします。（２月中旬頃）

（3）使用機器
発表に使用するパソコン等は持参してください。
＊プロジェクターへの接続は、VGA（D-Sub）及び HDMI 対応です。
＊Mac、iPad 等の接続は、適宜変換アダプターを持参してください。
＊上記のプロジェクター接続により、パワーポイント等で動画映像や音声を流すことも可能です。

（4）年会費の納入

今年度までの年会費未納では発表できませんので必ず納入してください。会費納入状況は以下からログインし、確認することができます。

https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/AAE

■札幌大谷大学までのアクセス

○地下鉄

・東豊線「東区役所前」駅下車、２番出口から徒歩 7 分

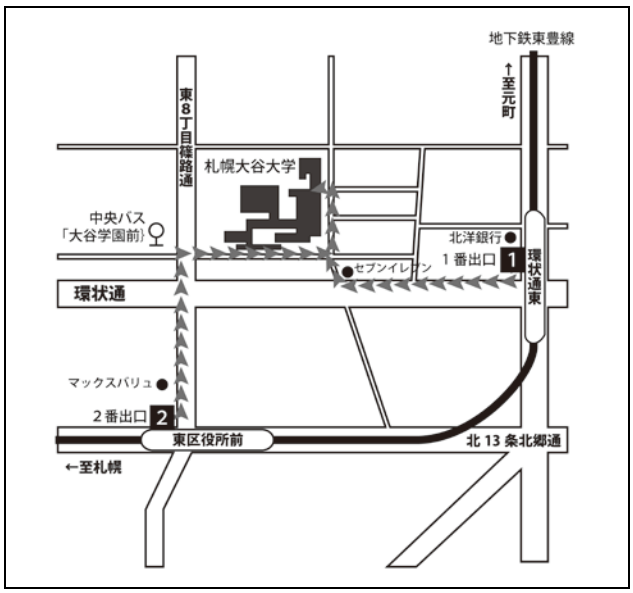
・東豊線「環状通東」駅下車、１番出口から徒歩 7 分

○中央バス

・東 17 北光線「大谷学園前」下車、徒歩 5 分

・東 19 北光・北口線「大谷学園前」下車、徒歩 5 分

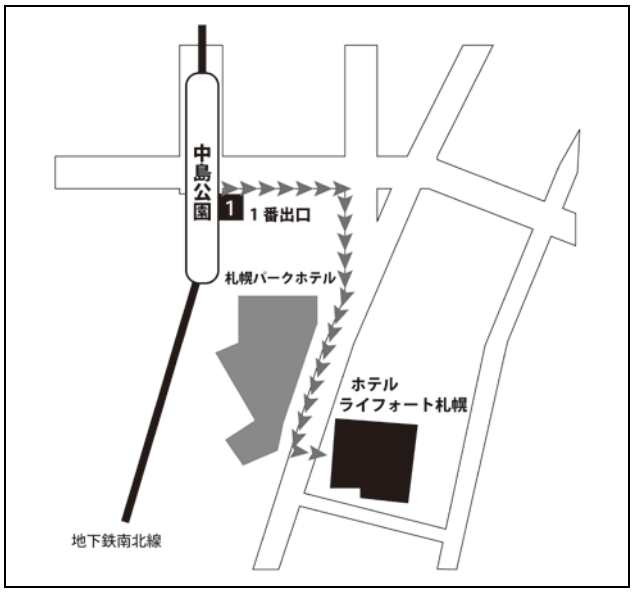
※自家用車での来場はご遠慮ください。



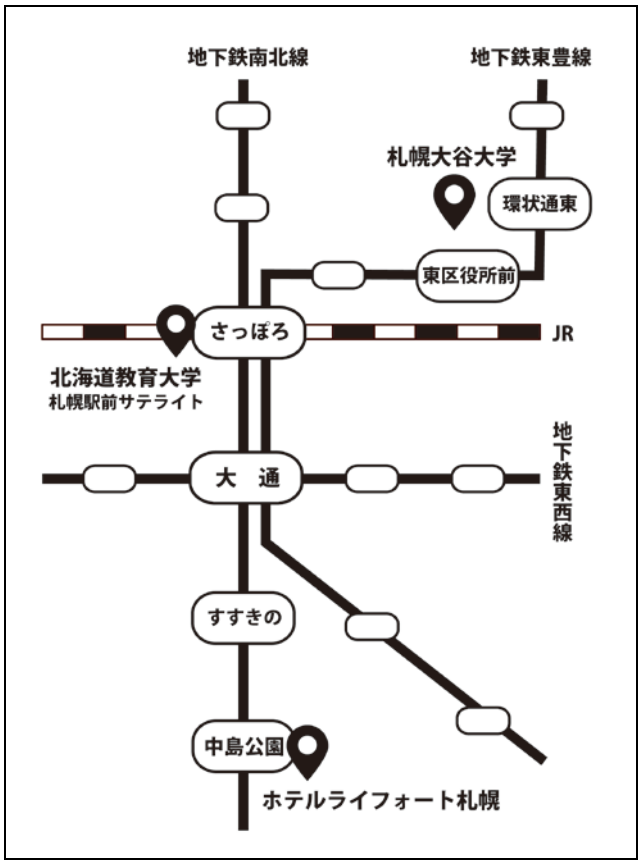
■懇親会会場ホテルライフォートまでの移動

○地下鉄

東豊線「東区役所前」駅から乗車し、「大通」駅で南北線に乗り換え、南北線「中島公園」駅で下車（所要約 18 分）、１番出口から徒歩 5 分



■各会場間の地下鉄路線図



■国内各地から札幌市へのアクセス

○国内の多くの空港から新千歳空港への直行便が就航しています。所要時間は以下を目安にしてください。

・東京羽田～新千歳　約１時間 35 分

・大阪伊丹～新千歳　約１時間 45 分

・福岡～新千歳　約２時間 15 分

○新千歳空港から札幌市内へのアクセス

・JR　新千歳空港駅から「快速エアポート」で札幌駅まで約 40 分

・バス　新千歳空港から「空港連絡バス（中央バス、北都交通）」で札幌駅まで約 70～80 分

■宿泊について

宿泊の斡旋はしませんので、ご自身での手配をお願いします。札幌市内には多数のホテルがありますが、近年の観光客の急増により、ホテル予約が困難になることも予想されます。できるだけ早めのご予約をお勧めします。

また、近郊の小樽市、千歳市にもホテルはあります。JR 快速で、札幌駅から小樽、千歳駅までの所要時間は 30～40 分程度です。

理事会報告

本部事務局　相田隆司(東京学芸大学)

2018 年度第 1 回理事会は，2018 年 9 月 2 日（日）13 時 30 分より 17 時 30 分まで聖心女子大学 2 号館 4 階ワークショップルームにて開催された。開会に際し水島代表理事の挨拶があり，続いて相田副代表理事の進行で議事が進められた。なお，出席した理事，監事は合計 18 名，公務等で欠席の 6 名からは委任状の提出があり，理事会の成立条件は満たされていることが確認された。

【審議事項】

Ⅰ　総務部関連

1. 第 40 回美術科教育学会滋賀大会の収支決算報告

新関理事より，第 40 回美術科教育学会滋賀大会の収支決算報告がなされた。審議の結果，原案通り承認された。

2. 第 41 回北海道大会の実施計画案について

佐々木宰大会実行委員長より，第 41 回美術科教育学会北海道大会の実施計画案について説明がなされた（2019 年 3 月 26 日(火)：大会第 1 日，3 月 27 日(水)：大会第 2 日)。審議の結果，時程の一部修正の上，承認された。

3. 新入会員及び退会者の承認について

西村理事より資料に基づき今年 3 月の理事会以降，8 月 22 日（水）までに受理された入会申し込み者 19 名（再入会者 1 名を含む）について説明・提案がなされ，審議の結果入会が承認された。続いて資料に基づき，退会者 8 名について説明・提案がなされ，審議の結果退会が承認された。

4. 美術科教育学叢書について

まず永守理事より叢書第 1 号刊行に係る費用，刊行以降の販売部数，学会への販売還元金の現状等について報告があり、当初の予算枠組みのなかで事業運営が可能である見通しが示された。また，相田副代表理事より出版社との契約が資料「著作物利用許諾及び出版契約」に基づき紹介された。続いて金子理事より叢書第 2 号刊行作業の進捗状況や今後の予定が示され，異議なく了承された。最後に水島代表理事から，叢書発行の意義・目的と主に発行形態に係る今後の検討事項等が再確認された。

5. 美術科教育学会役員選挙について

西村理事より第 9 期役員選挙につき，実施計画と実施経過につき提案があり異議なく了承された。また，投票可能な票数につき，現行の 7 名から増員することが提案され，検討の結果 15 名に変更することで了承された。さらに，理事の定年制，理事会の構成などについて議論されたが，今回の選挙は現行規定で実施することが了承された。

6. 「芸術教育の未来（仮)」の開催について

水島代表理事より，日本音楽教育学会との共同開催でシンポジウムを実施したい旨の提案があり，異議なく了承され今後の検討につき水島代表理事に一任された。

7. その他　学会費のクレジットカード支払い

相田副代表理事より年会費のクレジットカード決済採用に係る経費の概算が資料に基づき提案された。審議の結果，本件を含め，海外からの大会参加，学会誌の電子化等の可能性等，将来の学会像をより包括的に検討する委員会等の設立を検討することを次期第 9 期執行部への申し送り事項とすることが確認された。

Ⅱ　研究部関連

1. 研究倫理綱領案について

新関理事より，本学会の研究倫理ガイドブックの発刊の可否等につき検討依頼があり，審議の結果結論を保留することで了承された。

2. その他　なし

Ⅲ　事業部関連　なし

Ⅳ　その他　学会 Web ページのセキュリティについて

上山理事より，学会 Web ページの今後の SSL 認証対応について，様々な方法を検討・調査中である旨報告があり了承された。

【報告事項】

Ⅰ　総務部関連

1. 会費納入状況について

西村理事より，資料に基づき現在の会費納入状況について報告がなされた（2018 年度入金率 70%　8 月 22 日現在)。

2. 会費減額措置の申請状況について

西村理事より，資料に基づき会費減額申請（承認済み）の状況について報告がなされた。

3.　学会通信について

西村理事より学会通信第 99 号の頁構成と執筆担当者につき報告があり確認がなされた。

4. その他　なし

Ⅱ　研究部関連

1.『美術教育学』第 40 号の投稿状況，査読・編集日程について

直江副代表理事より資料に基づき『美術教育学』第 40 号への投稿数，今後の日程，査読依頼等につき報告がなされた。

2. 第 16 回『美術教育学』賞の選考経過について

新関理事より『美術教育学』賞の選考に関する経過についての報告があった。

3. その他　なし

Ⅲ 事業部関連

1. 実施済みリサーチフォーラムの報告と実施予定テーマについて

山木副代表理事より，リサーチフォーラムの実施状況が会計年度毎に 3 回（2017・2016 年度とも）のペースで行われてきていること，公募制採用により意欲的な企画が増え，質の高い研究発表やシンポジウムが実施されているとの報告があった。また，申請者にとって必要な書類などが学会ホームページから一括してダウンロードできるなど，運営上の利便性が図られた旨の報告もなされた。課題としては，理事のフォーラムへの参加をさらに増やしていくこと，Web 上での報告をより速やかに行えるようにしていくこと等が述べられ，2017 年度より実施されてきたリサーチフォーラムの内容について，各フォーラムの実施者が作成したフライヤーを基に紹介された。

2. リサーチフォーラム開催情報の一斉メール配信について

山木副代表理事より，リサーチフォーラム開催についての会員への一斉メールでの通知が周知方法として効果的であり，行事開催の３週間前に通知していることが報告された。

3. 芸術関連学会連合のシンポの開催について

長田理事，西村理事より，芸術関連学会連合シンポジウムの概要等の報告がなされた。

4. その他　なし

Ⅳ　その他　なし

第 1 回理事会（聖心女子大学）

挨拶する水島尚喜代表理事

（以上）

第９期学会役員選挙通知

選挙管理委員会委員長　西村徳行（東京学芸大学）

本学会役員（理事）の任期満了（2019 年３月）【会則 11 条】に伴う理事の改選を下記の要領で行います。なお選挙はオンライン投票となっておりますので、ご留意いただき投票をお願いいたします。

記

１．投票方法

オンライン投票システムによる

（美術科教育学会ホームページ：http://www.artedu.jp/ 上に投票システムへのリンクを掲載）

２．投票

オンライン投票システム上に掲載される被選挙人名簿より 15 名を選びオンライン投票システム上で投票する。

投票方法については，別に送付される「投票マニュアル」に則る。（「投票マニュアル」は，全会員宛メールにて送付とともに美術科教育学会ホームページ上に掲載）

※本記事にも「投票マニュアル」の要約版を記載しました。

３．投票締切

2018 年 11 月 30 日（金）（オンライン上）

４．無効投票

オンライン選挙システムによる所定の投票手続きをふまないもの

５．開票

2018 年 12 月初旬　ガリレオ東京本社

立会人　増田金吾 監事

６．補充理事

被選出理事 15 名の合議により，会員の中から補充理事（若干名）及び監事（２名）を委嘱する【理事選出規程第１条⑵】。

７．任期

新理事の任期は，2019 年 3 月の学会総会において承認を得てから３年【会則 11 条】。2019 年３月から 2022 年３月まで。

８．選挙管理委員（会員より３名，敬称略）

小林貴史（東京造形大学）

大橋麻里子（帝京平成大学）

西村徳行（東京学芸大学）

以上

※ 学会役員選挙にあたって

会員の皆様におかれましては，ご多用のなか，ますますご活躍のことと存じます。

３年に一度の学会役員選挙の時期になりました。今後，３年間の学会運営の核となるメンバーを選ぶ選挙です。美術教育関連では，役員選挙を実施している学会は多くはありません。本学会では，はやくから役員選挙を実施してきました。また，本学会の会員の約５分の２は女性です。学術会議協力団体としても役員への女性の参加度が問われています。投票に際しては，そうしたご事情を勘案され，ご配慮を賜れば幸いです。

より多くの会員が投票されるようにお願いいたします。

美術科教育学会　代表理事　水島尚喜

【オンライン投票システム「投票マニュアル」要約】

選挙は，ガリレオ 社の提供するオンライン投票システムにより投票を行います。つきましては，以下の手順に沿って投票してください。

投票期間： 平成 30 年 11 月 1 日（木）0 時～

平成 30 年 11 月 30 日（金）23 時 59 分 締切厳守

１．オンライン選挙システムにアクセスする

下記 URL をブラウザのアドレスバーにご入力いただくか，学会ホームページに掲載されているリンクよりオンライン選挙システムにアクセスしてください。

２．ログイン画面より会員 ID（会員番号）とパスワードを入力し，ログインする（図１）

会員 ID やパスワードが不明な場合は，オンライン選挙システムのログイン画面右側の【ログインできない方はこちら】ボタンをクリックしてご照会ください。

３．投票する選挙を選択する（図２）

投票できる選挙（未投票）が表示されますので，選挙名称をクリックしてください。

４．投票対象者を選択する（図３）

投票対象者は以下の２つの方法で選択が可能です。ご希望の選択方法によって投票対象者を選択してください。

投票可能な票数は，15 票までです。

方法①「候補者リストから選択」

→【候補者リストから選択】ボタンをクリックすると，被選挙人リスト（50 音順）が表示されます。リストのチェックボックスにチェックを入れることにより投票対象者が選択できます。

方法②「直接，会員 ID，氏名を入力して選択」

→「会員 ID」「氏」「名」のいずれかの情報を入力し【追加】ボタンをクリックすると，投票対象者が選択できます。「氏」または「名」を入力して【追加】ボタンをクリックした場合に，複数候補者がいるときは「会員 ID」欄に【▼】が表示されますので，【▼】をクリックしてプルダウンから該当者を選択し，再度【追加】ボタンをクリックして投票対象者を選択してください。

５．投票対象者選択の完了

投票対象者の選択が完了したら，ページ下部の【投票へ進む】ボタンをクリックしてください。（**図４**）

この際，定められた定数以上に投票すると，画面上部に**図５**のようなエラーメッセージが表示されます。

６．投票選択者の最終確認と投票（図６）

選択された投票対象者の確認画面が表示されます。投票内容を修正する場合は,【投票内容の修正】をクリックし，投票対象者選択の画面へ戻ってください。投票内容に間違いがない場合は,【投票】ボタンをクリックし投票完了となります。【投票】ボタンをクリックした後，変更はできませんのでご注意ください。

７．投票の完了（図７）

投票が完了すると，３．の選挙選択画面へ戻り，「投票を完了しました。」というメッセージが表示されるとともに，完了した選挙が「投票済み」と表示されます。

一度「投票済み」となった選挙については，投票内容の修正，再投票はできませんので，くれぐれもご注意ください。

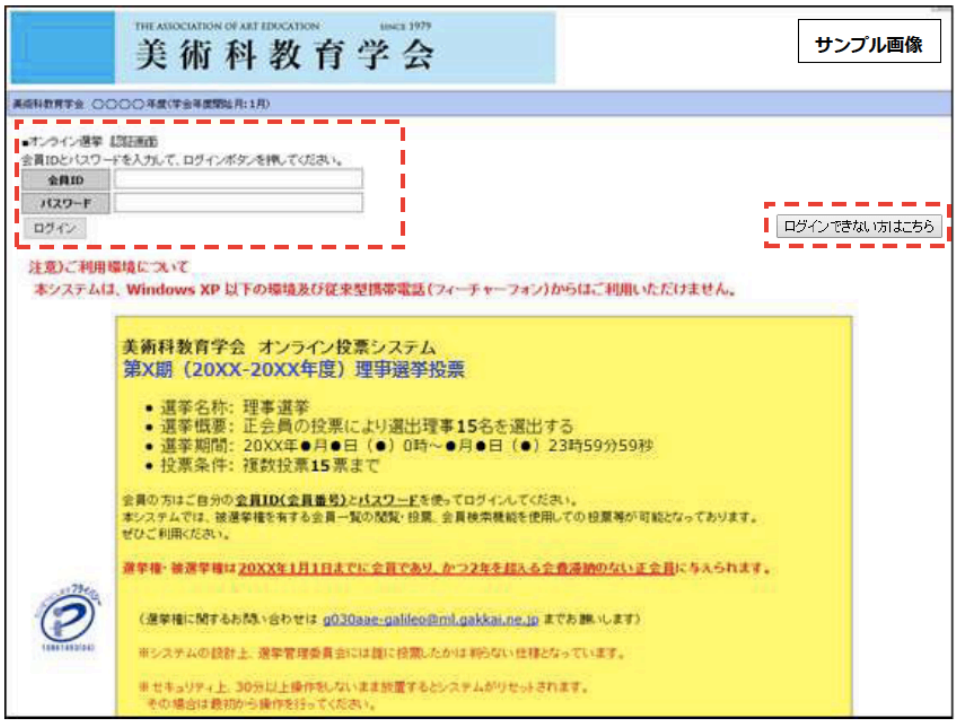


図１

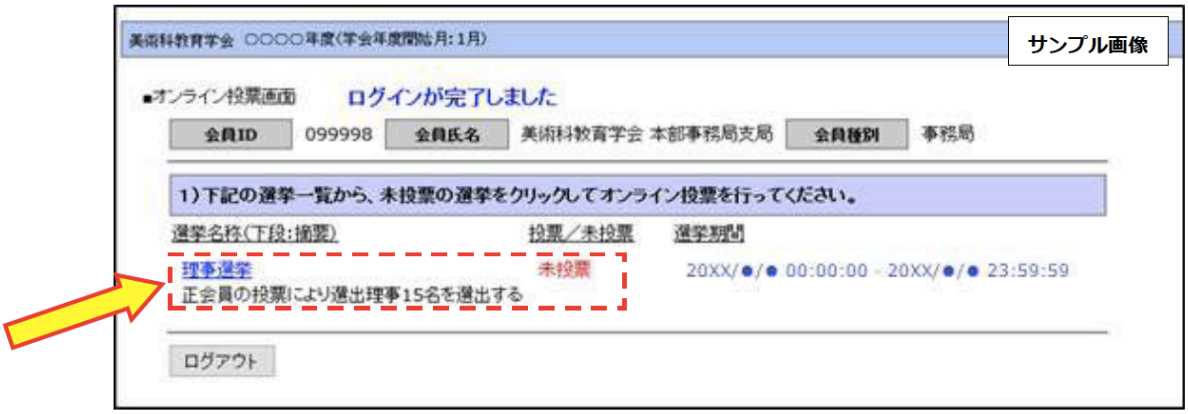

美術科教育学会 ○○○○年度(学会年度開始月:1月)
サンプル画像
■オンライン投票画面
ログインが完了しました
会員ID
099998
会員氏名
美術科教育学会 本部事務局支局
会員種別
事務局
1)下記の選挙一覧から、未投票の選挙をクリックしてオンライン投票を行ってください。
選挙名称(下段:摘要)
投票/未投票
選挙期間
理事選挙
未投票
20XX/●/● 00:00:00 - 20XX/●/● 23:59:59
正会員の投票により選出理事15名を選出する
ログアウト

図２

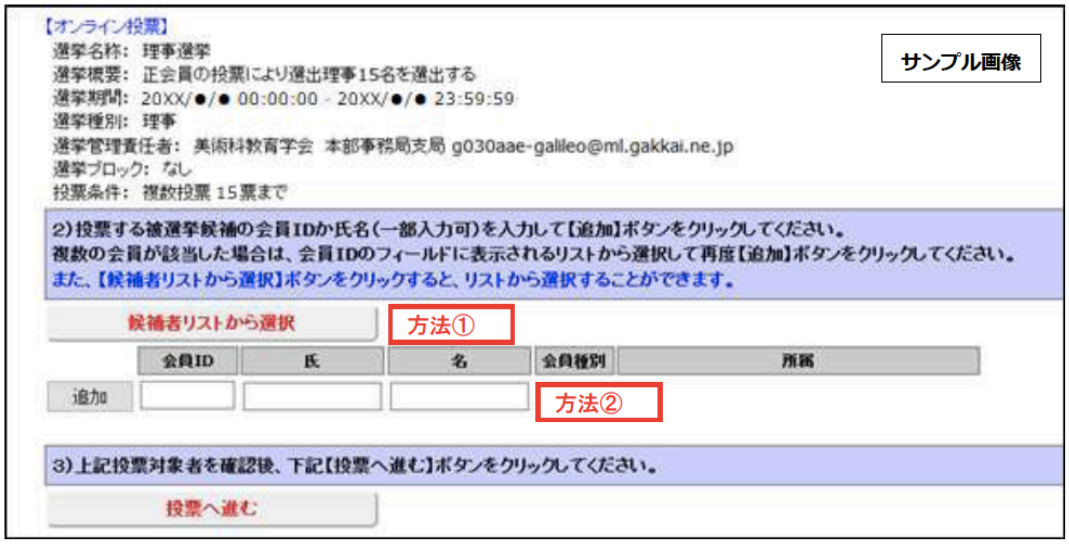

【オンライン投票】
サンプル画像
選挙名称: 理事選挙
選挙概要: 正会員の投票により選出理事15名を選出する
選挙期間: 20XX/●/● 00:00:00 - 20XX/●/● 23:59:59
選挙種別: 理事
選挙管理責任者: 美術科教育学会 本部事務局支局 g030aae-galileo@ml.gakkai.ne.jp
選挙ブロック: なし
投票条件: 複数投票 15票まで
2)投票する被選挙候補の会員IDか氏名(一部入力可)を入力して【追加】ボタンをクリックしてください。
複数の会員が該当した場合は、会員IDのフィールドに表示されるリストから選択して再度【追加】ボタンをクリックしてください。
また、【候補者リストから選択】ボタンをクリックすると、リストから選択することができます。
候補者リストから選択
方法①
会員ID
氏
名
会員種別
所属
追加
方法②
3)上記投票対象者を確認後、下記【投票へ進む】ボタンをクリックしてください。
投票へ進む

図３

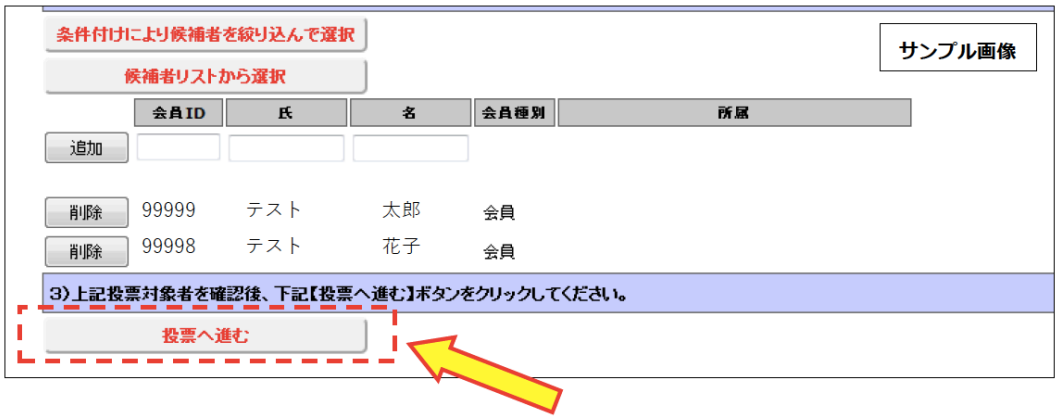

条件付けにより候補者を絞り込んで選択
サンプル画像
候補者リストから選択
会員ID
氏
名
会員種別
所属
追加
削除
99999
テスト
太郎
会員
削除
99998
テスト
花子
会員
3)上記投票対象者を確認後、下記【投票へ進む】ボタンをクリックしてください。
投票へ進む

図４

美術科教育学会 ○○○○年度(学会年度開始月:1月)
サンプル画像
■ オンライン投票画面
選択した被選挙候補者が多すぎます。投票は 15 票までに限ります
選択候補者数: 20 / 15
会員ID
099998
会員氏名
美術科教育学会 本部事務局支局
会員種別
事務局

図５

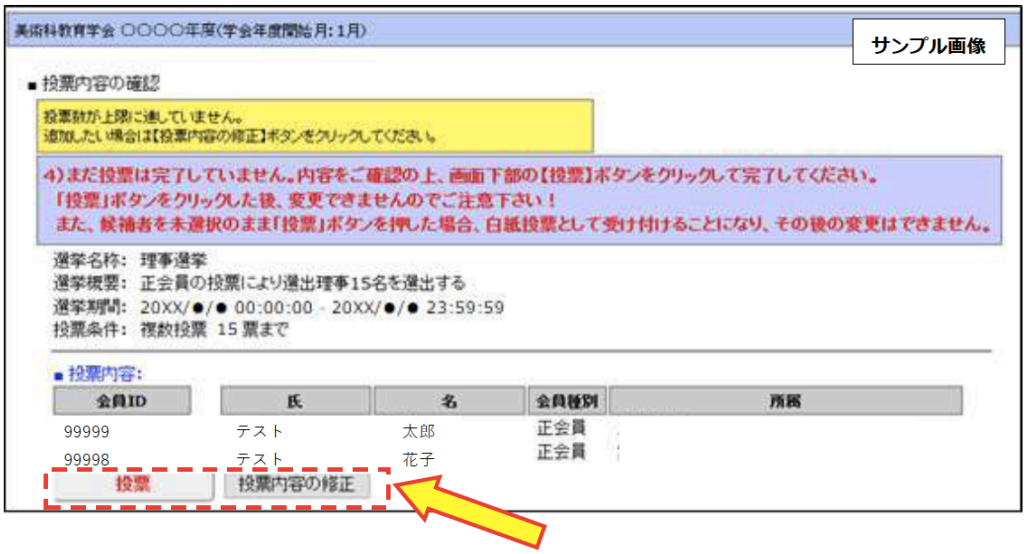

美術科教育学会 ○○○○年度(学会年度開始月:1月)
サンプル画像
■ 投票内容の確認
投票数が上限に達していません。
追加したい場合は【投票内容の修正】ボタンをクリックしてください。
4)まだ投票は完了していません。内容をご確認の上、画面下部の【投票】ボタンをクリックして完了してください。
「投票」ボタンをクリックした後、変更できませんのでご注意下さい！
また、候補者を未選択のまま「投票」ボタンを押した場合、白紙投票として受け付けることになり、その後の変更はできません。
選挙名称: 理事選挙
選挙概要: 正会員の投票により選出理事15名を選出する
選挙期間: 20XX/●/● 00:00:00 - 20XX/●/● 23:59:59
投票条件: 複数投票 15 票まで
■ 投票内容:
会員ID
氏
名
会員種別
所属
99999
テスト
太郎
正会員
99998
テスト
花子
正会員
投票
投票内容の修正

図６

美術科教育学会 ○○○○年度(学会年度開始月:1月)
サンプル画像
■オンライン投票画面
投票を完了しました。
会員ID
099998
会員氏名
美術科教育学会 本部事務局支局
会員種別
事務局
1)下記の選挙一覧から、未投票の選挙をクリックしてオンライン投票を行ってください。
選挙名称(下段:概要)
投票／未投票
選挙期間
理事選挙
正会員の投票により選出理事15名を選出する
投票済
20XX/●/● 00:00:00 - 20XX/●/● 23:59:59
ログアウト

図７

新刊紹介　『ものづくり教育再考―戦後（1945 年以降）ものづくり教育の点描とチャールズ・A・ベネット著作の抄訳』（佐藤昌彦:著作及び翻訳・宮脇 理:解説）

山木朝彦　鳴門教育大学

1. ものづくり教育に向ける著者のまなざし

著者の佐藤昌彦（北海道教育大学教授）がものづくり教育の未来像へ眼を向ける理由を３つ，著作の冒頭に掲げているので，その言葉に耳を傾けてみよう。

「第一は，福島原発事故（2011）を踏まえて，ものづくりに責任をもつ教育を構築することが今後の我が国における切実な課題と捉えたからです。私の実家は福島にあります。2011（平成 23）年３月 11 日の大地震で母が避難所に移ったとの連絡を受け，急きょ，12 日には新千歳空港から福島に戻りました。到着して間もなく，福島原発が爆発。以後，放射性物質の放出による屋内退避や避難準備など，様々な緊迫した状況のなかで過ごすことになりました。ものは人間に恩恵をもたらすとともに，一転すれば，大惨事を引き起こします。次世代の教育を考える上でものづくりの責任への眼差しは欠かすことができません。」

全人類にとって，そして，全人類史にとって未曾有の災禍である福島原発事故。それをまさに福島で体験した著者のリアリティーは,想像を絶するものだろう。最先端科学の成果が集積され凝縮された原子力発電所が津波によって外部電源を失うという単純な理由で，拡散された放射能は全地球に及び，その対策には幾世代もの間，膨大な労力と莫大な費用を費やさなくてはならなくなった。この問題をものづくりの射程に入れることで，佐藤の研究は思想としての土台を得たのである。

佐藤は,「第二は，学生時代を過ごした福島大学の図書館で，チャールズ・A・ベネットの著作に触れ，過去・現在・未来を俯瞰して，ものづくり教育の未来像を描く重要性を知ることができたからです。宮脇 理先生（Independent Scholar, 元・筑波大学大学院教授）が，1960（昭和 35）年８月から 1971（昭和 46）年３月まで，福島大学に勤務されていた際に購入して図書館の蔵書に加えられたものでした。」と語る。まさにアーキヴィストとして，常に世界を俯瞰しダイナミックな歴史の潮流を見つめ,解釈と分析を展開してきた宮脇 理が見定めた価値ある文献に対峙し，佐藤は高品位な翻訳を成し遂げ，宮脇の期待に応えたことになる。この本についての解説について宮脇が健筆を振るった所以（ゆえん）である。

出版社 学術研究出版/ブックウェイ
ISBN　978-486584-354-5
出版日 2018 年９月 25 日
価格　2500 円

「第三は，ものづくり教育に関わる講演・鼎談・シンポジウムの場として企画した「ホワイトテーブル in 札幌」（2015，2016）において，科学・技術・造形芸術（責任ある工芸&デザイン）が連携して，ものづくり教育の未来像を描く大切さが確認されたからです。（中略）ものづくり教育再考として，宮脇先生には，「『ものづくり教育』のグランドデザイン」や「『工作・工芸

教育』へのリスペクト」に関する「解説」を執筆していただきました。次世代ものづくり教育を構築するための指針にしたいと思います。」

これが第３の理由。要するに，これまで展開してきた，ものづくり教育についてのシンポジウムや講演などの学術的アプローチを総括し，そのテーマをさらに深めたいという佐藤の企画意図があり，さらに，広範な読者の理解を促すために，この運動を鼓舞し続けてきた宮脇による新たな角度からのテーマに関する解説的批評が求められたということであろうか。

この３つのアスペクトはまるで三角柱のプリズム（分光器）のように，ものづくりという曖昧な概念を光のスペクトラムのように選り分け，マッピング化してみせてくれる。そしてそれは同時に，幾つもの現象に分解して見え，異なる分野の問題として取り上げられてきたものづくりの教育を統合し，大きな光へと還元する装置でもある。

「日本のものづくり教育，なかでも学校教育の美術科工芸の内容と技術科加工の内容とは，未だに『同床異夢』が続いています。上梓の意図は，その『同床異夢』の経緯へ眼差しを向け，それを踏まえて，ものづくり教育の未来像を描くことに」あると佐藤が述べているのは，その証である。

2. 本書の内容

以下に目次と執筆担当者を掲載します。

『ものづくり教育再考』，上梓の意図は何か(佐藤)
はじめに（PROLOGUE）（宮脇）
Ⅰ復刻「工作・工芸教育百周年記念誌（1986 年刊行）の意義と研究課題」（佐藤）
Ⅱ復刻「IFEL（The Institute For Educational Leadership）への眼差し―ものづくり教育の重要性，その認識を深めるための一路程として―」（佐藤）
Ⅲ抄訳「第１章：THE MECHANIC ARTS の指導に関するロシアシステム」《CHARLES ALPHEUS BENNETT／HISTORY of MANUAL and INDUSTRIAL EDUCATION 1870 to 1917 ／（1937）:CHAPTER Ⅰ ／THE RUSSIAN SYSTEM OF TEACHING THE MECHANIC ARTS》（翻訳:佐藤）
Ⅳ抄訳「第２章：スカンジナビアのスロイドシステム（SLÖJD, SLOYD）」《前掲書　CHAPTER II ／THE SLOYD OF SCANDINAVIA》（翻訳:佐藤）
Ⅴ今後へ向けて―芸術学会機関誌『スクールアート』（1949 年創刊）と戦後（1945 年以降）ものづくり教育の点描―(佐藤)
あとがき（EPILOG）（宮脇）
謝辞:佐藤＆宮脇
解説者：宮脇 理の（LAST MONOLOGUE）（宮脇）

1 章と 2 章は復刻とあるので，そうとう古い文献かと誤解しそうだが，宮脇が述べるとおり「北海道教育大学紀要や『アートエデュケーション思考』(学術研究出版／ブックウェイ）にて発表した内容に（佐藤自身）により手を入れたもの」である。1 章で，佐藤が詳細な内容紹介によって，その歴史的意義を探り見出した対象は，『工作・工芸教育百周年記念誌』（1986）である。昨今，歴史分野でオーラルヒストリーの構築が求められているが，この文献には工作・工芸教育に携わる数多くの人々が生な声に似た文を寄稿している。また教育制度の変遷に関わる資料を含む文献である。この文献に着目した著者の慧眼に賛辞を送るべきだろう。

2 章で扱われた IFEL とは，「CIE の援助を受けながら文部省が予算を立てて開始した教育事業の一つである。1948（昭和 23）年から 1951（昭和 26）年まで，教育長，指導主事，各教科教育などに関する講座が第１期から第８期まで開設された。IFEL 工作科教育は連合国軍占領終結後の 1952（昭和 27）年 11 月 17 日から 12 月 26 日までの６週間にわたり第９期として開設されたものである。（中略）IFEL 図画科教育も，同時期，同会場で別講座として実施された」ものである。歴史的転換期に催されたこの講習について，その開催を巡る経緯を追うことで，時代の節目に関わった人々の意識を佐藤は探っている。

3 章と 4 章は，ロシア法とスロイドシステムに関する歴史とその具体的な指導方法を詳述した貴重な文献の翻訳である。チャールズ・A・ベネット（Charles Alpheus Bennet, 1864-1942）は数多くの文献に当たり，それらの教授法の実際について徹底的に調べ尽くしている。見事な翻訳によって内容が明らかになることによって，恩恵を受ける研究者は多いであろう。

5 章は芸術学会［現在活動していない］機関誌の「スクールアート」（1949 年創刊）の詳細な内容の紹介と，その歴史的意義についての考察である。このパートもまたきわめて資料性の高い貴重な内容である。

3. 魅力の所在

以上の章立てをご覧になるとわかる通り，本書は従来，工芸分野に分類されてきた歴史的に貴重な文献や重要な運動に伴うドキュメントを中心に，その歴史的意義などについて考究してきた佐藤の研究の歩みを纏めた著作であるが，宮脇の鋭利な刃のような批評的解説が，現代とこれらの歴史的ドキュメントを繋いでくれている。佐藤による研究成果が不動の様相をみせるのに対して，激動の歴史をつぶさに見つつ，その中で数多くの運動を起こし，成果を歴史に刻み続けてきた宮脇の言葉は，時に尖鋭を極め，時に重厚に，ものづくりに関わる教育の歴史の来し方と行く末を振り返り，暗示してくれている。このコントラストの強さも本書に隠された魅力の中心であろう。

新刊紹介

美術教育学叢書企画編集委員会編　『美術教育学叢書１　美術教育学の現在から』

今川恭子（聖心女子大学）

美術教育学の「今」から「未来」へ

本書は、設立４０周年を迎えた美術科教育学会が、学会の歩んできた、そしてこれから歩んでいく道のりの重要なメルクマールとして世に出したものである。我が国の美術教育学を牽引する方々の叡智がコンパクトな中に凝縮された、重みを感じさせる一冊である。

この新刊紹介を、筆者は音楽教育学に携わる立場で書かせて戴いている。筆者が所属する日本音楽教育学会は間もなく設立 50 周年を迎えようとしており、その記念となる出版を企画しているところなのだが、本書を貫く基本姿勢と所収された一篇ずつがきわめて大きな示唆を与えてくれるものであったことは、まず真っ先に述べておきたい。「叢書」という形での出版をスタートさせたことの趣旨には、学会として未来に向け一貫して学術的主張を展開することと同時に、実践の生起するフィールドとそれを見つめる視点の多様性を包括していくことが、表明されている。ここからは、同じ芸術教育に携わる者として学ぶところが大きい。

７つの文脈からの学の絆形成

本書は、多岐にわたる研究を学会として組織的に包括的に補完、通底する織物の糸（「創刊の辞」の言葉から）の役割を果たす媒体として構成されている。美術教育の歴史と現在とを踏まえた上で学としての確立を強く希求するところはすべての著者に共通しているが、それはけっして旧態依然としたガチガチの体系的学問ではなく、視点の輻輳性、多様性を包み込んだ芸術教育ならではの学の形を目指しているように思われる。このことは、本書を構成する骨格となる「７つの文脈」に体現されている。

「７つの文脈」を紹介すると、次の通りである。「文脈１：変貌する学力・能力観のなかで、美術教育という価値体系の更新が求められている」。「文脈２：美術教育研究の成果はカリキュラムに結実され、カリキュラム研究の創造性は実践の創造性を支える」。「文脈３：美術教育の理論と実践を結ぶ授業論と学習論の展開は、1990 年代以降にその重要性を増し、美術教育学における検証が課題となっている」。「文脈４：今日におけるデザインと工芸概念の変質は、造形の教育を溶解させつつあり、新たな教育的ビジョンを要請している」。「文脈５：美術教育研究を文化論的広がりのなかで、また歴史的展開のなかで、メタ視点から検証することが要請されている」。「文脈６：教科内容諸学との連携のなかで形成される美術教育研究の枠組みが、その理論体系と教員養成に高度化をもたらす」。「文脈７：教育実践の現場における美術教育研究の形成を検証し、教育実践と教育研究との創造的関係を探ることが求められている」。

第１の文脈では、美術教育が育む力の普遍性を信じつつ現代社会の教育的課題に向き合う。第 2・第 3 の文脈では実践的課題に向き合い、学習と学習の系統性が動的に捉えられる。第 4 の文脈においてモノ・コトと人との関わり合いの中に現代的な問いが浮かびあがる。第 5 の文脈では美術教育学をメタする学際的まなざしが示され、第 6 の文脈では教員養成の高度化が、そして第 7 の文脈では実践と学問研究との関係性が追及される。いずれにおいても、美術と人間との関わり合いをめぐる幅広い学問的知識に根差し、教育と社会の現代的課題に取り組む著者たちの、高い見識と深い思索が読み手に伝わってくる。

芸術教育の未来に向けて

芸術教科はなぜ、なんのためにあるのか。このことが厳しく問われるのは今に始まったことではないだろう。音楽科についても、「学校音楽（唱歌）校門を出ず」と古くから言われてきた。学校で学ぶ音楽は生活と結びつかない、生きる上で役に立たないというのである。芸術教育に携わる者はおそらくほとんどが、目先の「〇〇に役立つ」と、安直に答えてはいけないと思っているだろう。公教育で美術を学ぶことも、音楽を学ぶことも、人が人として生きていく根幹にかかわるはずである。研究に携わる者の使命は、それを学問的な根拠をもって示すこと、語ることであり、学会の重要な使命の一つは、それら研究の交流と発展を支えることだろう。著者と編者あわせて総勢 18 人の手による本書は、最新の学際的知見に裏打ちされた信念と、実践現場の現実とがクロスするところで、美術教育の未来への道を示そうとしている。

本部事務局より

■2018 会計年度までの会費納入はお済みですか。

「2018会計年度会費」は，**2018年7月末日**までに納入いただくようにお願いしています。もし，未だの場合は，至急の納入をお願いします。3月の年次大会，リサーチフォーラム，地区会，学会誌刊行などの学会運営は，会員の皆様の会費により運営されています。

ご自分の各年度の年会費納入状況については，以下の「会員情報管理システム」にログインすることにより確認が可能です。
https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/AAE

なお，納入状況に疑問がある場合には，下記本部事務局支局アドレスにお問い合わせ下さい。

会費納入に関するお問い合わせ先：
（株）ガリレオ　東京オフィス　担当者　和久津君子
[窓口アドレス]g030aae-mng@ml.gakkai.ne.jp

注意事項

学会誌への投稿並びに年次大会での口頭発表に際しては，投稿や申込みの時点で以下の２つの条件を満たしている必要があります。

①会員登録をしていること
②当該年度までの年会費を全て納入済みであること
　会費を２年間滞納した場合は，会員資格を失います。

例年，学会誌への投稿締め切りは，毎年８月下旬，大会での口頭発表申込みは，11月初旬の予定です。十分にご注意下さい。

■会費振り込み口座名，番号

２月の学会通信に同封の振込用紙，郵便局にある払込用紙または銀行等からの振替により下記の口座に納入してください。

銀行名：ゆうちょ銀行
口座記号番号：00140-9-551193
口座名称：美術科教育学会 本部事務局支局

通信欄には，「2018会計年度会費」等，会費の年度および会員ID番号を記入してください。また，ゆうちょ銀行以外の銀行からの振込の受取口座として利用される場合は下記内容を指定してください。

店名(店番)：〇一九(ゼロイチキユウ)店(019)
預金種目：当座
口座番号：0551193

■大学院生等への会費減額措置(申請は毎年必要)

大学院生等は，所定の手続きにより，年会費を半額(4,000円)に減額する措置を受けることができます。会費減額措置を希望する大学院生等は，毎年，５月中に各自，申請手続きをすることになっています。申請しない場合は，減額措置を受けられません。未だ手続きがお済みでない方は，学会ウェブサイトをご参照ください。
http://www.artedu.jp/bbg4um0dy-8/#_8

なお、本制度は，大学院生等に対する経済的な支援を目的として設けられています。指導教員の先生は，申請者が以下のいずれかに該当するか確認の上，申請させて下さい。

１　常勤職を持たない「大学院生又は大学院研究生」である。
２、勤務先を持つが，当該会計年度の間、無給の「大学院生又は大学院研究生」である。

■美術教育学叢書第１号のご購入はBookWayのサイトからご購入下さい。手順は以下の通りです。
※オンライン書店BookWay でご購入の場合（現金振り込みによる購入）

１．BookWay サイトを開くhttps://bookway.jp/
２．TOP 頁の左サイドの「会員登録せずに紙書籍を購入する」のボタンをクリック。
３．申し込みフォームが現れますので、必要事項をご記入して送信してください。
４．ご注文いただきましたら、BookWay から発送予定やご注文の合計金額、振込先の銀行口座がメールでご案内されます。入金の確認が取れましたら発送されます。

※クレジット決済の場合はTOP 画面の右上にある検索からキーワードを入力して本を探してご購入下さい。

■住所・所属等変更，退会手続き

住所，所属先等に変更のあった方は，すみやかに本部事務局支局までご連絡ください。退会を希望される場合は，電子メールではなく，必ず文書(退会希望日を明記してください)を郵送にてお送りください。あわせて，在籍最終年度までの会費納入完了をお願いします。

美術科教育学会 本部事務局 支局
（2018年６月より下記のように住所表記が変更されました）
〒170-0002 豊島区巣鴨1-24-1-4F
(株)ガリレオ　東京オフィス　担当者　和久津　君子
[窓口アドレス]g030aae-mng@ml.gakkai.ne.jp

■新入会員

2018年3月28日の2回理事会以降、2018年8月22日までに入会申込書が受理され，9月2日の第2回理事会で入会が承認された方は下記の通りです。(受付順)

荒井香織　溝上義則　本田郁子　吉田岳雄　野村紀子
佐二木健一　北野諒　茂木祥宏　水野道子　上山明子
青木宏子　藤澤優人　野村真弘　岡田京子　梶原千恵
小室明久　槙野匠　栗原慶　石渡圭子

■「オンライン名簿(検索)システム」

学会HP(http://www.artedu.jp)左のメニュー「会員名簿」をクリックして「名簿(検索)システム」
https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/member_search/AAEにお入り下さい。公開項目は，もちろん各会員が決定できますが，会員相互の交流のために，所属先住所，メールアドレスなど可能な範囲での登録をお願いします。

美術科教育学会 本部事務局

■ 聖心女子大学　〒150-8938　東京都渋谷区広尾 4-3-1　聖心女子大学文学部
　水島尚喜(代表理事) mizusima@u-sacred-heart.ac.jp　TEL 03-3407-5811

■ 東京学芸大学　〒184-8501　東京都小金井市貫井北町4-1-1　東京学芸大学　芸術・スポーツ科学系
　相田隆司(総務担当副代表理事／本部事務局長／庶務・会計・規約) t-aida@u-gakugei.ac.jp TEL 042-329-7594
　西村徳行(学会通信・学会名簿・会費管理) nishimur@u-gakugei.ac.jp TEL 042-329-7608
　笠原広一（本部事務局運営委員／学会通信）kasahara@u-gakugei.ac.jp　TEL 042-329-7610

■ 横浜国立大学　〒240-8502　神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-2　横浜国立大学教育学部
　大泉義一（ウェブ・メール配信）oizumi@ynu.ac.jp TEL045-339-3453

■ 三重大学　〒514－8507　三重県津市栗真町屋町1577　三重大学教育学部
　上山　浩(ウェブ・J-Stage)　ueyama@edu.mie-u.ac.jp　TEL 059-231-9280

美術科教育学会 本部事務局 支局

■ （株）ガリレオ(www.galileo.co.jp)　東京オフィス　〒170-0002　豊島区巣鴨1-24-1-4F
　（担当者　和久津君子 ）　TEL: 03-5981-9824　FAX: 03-5981-9852